

BIGBEARS が日本一になる上で最も重要な要素

The most important thing for BIGBEARS to become No.1 of Japan.

1K08B132-8 鐵雅斗

指導教員 主査 寒川先生 副査 瀬戸先生

【目的】

今現在も日本のフットボール界は発展途上に有り、正しい指導方法も確立していない。そのため、指導方法が大学ごとに大きく違い、各大学の特色が非常にわかりやすいのも事実である。例えば、スポーツ推薦によって選手を集めている大学では、プレイは単純であるが、選手たちの生まれ持った体格やスピードを活かせるシステムになっている。また推薦はとっていないが学力の高い大学であれば、肉体で劣る部分を緻密な作戦で補ってくる。こういった大学ごとの特色を見分けながら試合を見るのも、アメリカンフットボールの醍醐味であり、もしかするとまだ発展途上にある日本のフットボール会だからこそ楽しめるものかもしれない。私は 2008 年度から 2009 年度にかけて、4 年間早稲田大学米式蹴球部 BIGBEARS でアメリカンフットボール部に所属し、日々練習に励んできた。早稲田大学のアメリカンフットボール部の歴史は他の大学に比べて長い。近年一部上位校として常に名を連ねてきているため、すごい選手が集められていると思われる方も多いかもしれない。しかし、実は BIGBEARS には推薦制度がなく、生まれ持った体格やスピードに優れた選手というのは非常に少ないチームなのだ。推薦制度がなくフィジカルや経験値の乏しい BIGBEARS が他の一部上位校と戦うためには果たして何が必要なのか、実際にこの四年間で自分が経験してきた練習やミーティングの内容をもとに考察したいと思う。

【方法】

私がこれまで経験してきた練習内容とそれに関する資料、また、実際の選手たちの意見をもとに、早稲田大学米式蹴球部が他の大学に勝つために重要なことを考察していく。

【考察】

早稲田大学米式蹴球部が日本一になる上で最も重要な要素は、「土台作り」だと考える。単純に土台作りといっても、その意味するところは広い。ひとつは、そもそもどうやってチーム作りをしていくか、「チームの方針」を決めること。二つ目は、対戦校のことを深く調べ上げ、作戦を立てる「準備」の部分。そして三つ目は、早稲田が代々

武器として掲げてきた「Funda(ファンダ)」である。Funda とは、BIGBEARS 独自の言葉であり、ヒットやタックル、アジリティといった、アメリカンフットボールにおける基本的な技術「Fundamental(ファンダメンタル)」のことを指す。これらは全て BIGBEARS が日本一になる上で土台となる要素であるが、なぜこの土台作りが重要なのか。それは、早稲田大学に推薦制度がないことが挙げられる。推薦制度がないことにより、BIGBEARS には生まれながらにして体格に恵まれている選手や、スピードの早い選手が少ない。問題はそれだけでなく、大学からアメリカンフットボールをはじめる人間が多いため、経験値の豊富な選手が非常に少ないのである。そんな早稲田大学が一部上位校を倒し、日本一になるためには、誰にでもできる基本的なことを、どこよりも磨くことが重要なのだ。実際他校の選手に聞いたところ、BIGBEARS でいうところの「Funda」を特別に切り出して練習しているチームはほとんどなかった。特に推薦制度で経験豊富な選手を集めている大学は、試合形式の練習の中で自然と身につけていくというスタンスのところが多く Funda に対する意識が低い大学が多かった。これと同様に、理解度を高めるための「準備」や「チームの方針」作りなど、フットボールの基本となる部分にこそ、上位校は好きを見せる。こういった相手のスキを逆に自分たちの強みにすることで、強豪校立ちに対抗することが、早稲田が日本一になるためには最も重要だと考える。

【結果】

BIGBEARS の選手たちの実際の意見や、練習内容、また、部に関する資料をもとに考察することで、日本一になるために必要な要素は、細かく分ければ様々であるが、中でも最も大きな要素が土台作りであることがわかった。BIGBEARS の弱点を補い、なおかつ強豪校のスキを突くためにも、この土台作りが大きな役割を持っている。そしてその土台を構成する要素の中でも Funda に対する取り組みが、他の大学と BIGBEARS で大きく異なる文化であることがわかった。

